第41号
令和8年3月

たかつハートリレー 取材レポート



小さな勇気が地域を結ぶ 等身大の想いから生まれた 子育ての居場所「子育てサロン りぼん」

取材先
吉岡 美穂さん
山口 佐栄子さん
山田 千明さん

「自分たちでやろう」から始まった小さな居場所



マットが敷かれた集会所で、赤ちゃんを抱いたママ同士が自然と会話を交わしていました。手作りのおもちゃが並び、メンバーがにこにこと見守る、そんな穏やかな時間が流れています。

「子育てサロン　りぼん」は、末長宗田住宅集会所で月2回活動する親子の居場所です。主任児童委員や民生委員として地域の子育てを見守ってきた吉岡美穂さん、山口佐栄子さん、山田千明さんの3人が中心となり、2024年2月にスタートしました。

きっかけは「このエリアにも気軽に集まれる場所があったらいいよね」という日常の会話でした。溝ノ口の子育て支援活動には、末長・新作エリアからの参加者が少ないことに気づいていた3人。当初は「そのうち誰かが始めてくれるだろう」と思っていましたが、動きは生まれませんでした。「誰も動かないまま時間だけが過ぎていって……それなら自分たちでやろうと思ったんです」

会場さがしでは地域のつながりが力を発揮しました。老人クラブの方の紹介で集会所の管理人に思いを伝えると、「地域のためになるなら」と快諾。末長町会からはマットを借り受け、おもちゃは手作りしました。「ここまでトントン拍子に整ったのだから、やるしかないと思いました」。最初から大勢を集めようとはせず、「一組でも来てくれたら十分」という姿勢で始めました。知り合いが親子を連れて来てくれたのをきっかけに、一人、また一人と輪が広がっています。

ママの安心と、地域に広がるつながり



りぼんが目指すのは、子どもを預かる施設ではなく、母親同士が安心して話せる場所です。定員は10組ですが、5～6組がちょうどよいのだそう。少人数だからこそ輪に入れないということがなく、自然と会話が生まれます。メンバーが子どもの様子を見守っている間に、離乳食や保育園のことなど生活に密着した情報交換が弾みます。月齢別に参加者を分けているため、寝返り前の赤ちゃんも安心して過ごせると好評です。

「毎月顔を合わせるので、先月できなかったことが今月できるようになったね、とお互いの子どもの成長を喜びあえることがうれしいです」と語るお母さんも。別の方は「ここで他の赤ちゃんがハイハイしているのを見ていたら、家に帰ってうちの子も寝返りをしたんです」と嬉しそうに話してくれました。子ども同士の姿が、よい刺激になっているようです。「ワンオペ育児だと家にこもりがちですが、月に一度でも違う場所で過ごせるのが助かっています」との声もありました。

支える側のメンバーにとってもかけがえのない時間です。「子どもを見ているだけで楽しい。いやされています」と笑顔を見せます。毎回、季節の折り紙リースにリボンを貼ったお土産を手作りするのも「りぼん」ならでは。名称には「人と人を結ぶ」という意味が込められています。「細く長く、無理をせず続けていきたい」。そんな温かな想いが詰まった小さなサロンに、ぜひ一度足を運んでみてください。

たかつハートリレーとは、小地域やグループ単位で行っている福祉活動について現地取材を行い、写真やインタビュー記事とともに掲載していきます。取材された団体が次の団体を取材するリレー形式を取る事で、取材の場が区民の交流の機会にもつながることを目指します。

ハートリレーHP

発行・問い合わせ　高津区役所地域みまもり支援センター地域ケア推進課　TEL：044-861-3313